

令和7年11月13日 正副会頭就任記者会見 発言要旨

■所信表明

今年1月に塚本前会頭からバトンを受け継いで以来、わずか1年足らずの間にも、社会経済情勢は大きく変わり、不確実性が一段と高まる中で、持続的な経済成長をどう実現するか大切です。

京都には、文化・学術・産業が有機的に交わる、他の地域にはない強みがあります。その豊かな土壌から、新しい価値を創り出そうという動きも着実に芽吹いており、今こそ「伝統」と「革新」を両立させる京都の底力が問われていると感じております。

京都企業それぞれが長年培ってきた唯一無二の価値を、商工会議所の活動を通じて結び合わせ、変化の激しい社会経済の中でも、中小企業が力強く成長できるよう後押ししていきたい。こうした思いを反映し、今期は「“ほんまもん”を結(ゆ)わう ～変革と挑戦～」をスローガンに掲げ、また、ロゴも一新いたしました。「2025～2028 中期経営計画」の3つの活動方針を軸に、取り組みを進めてまいります。

まず1つ目の柱は「魅力ある京都企業の成長後押し」です。特に、優れた技術や商品、サービスを持ちながら、まだ十分に発信できていない企業を後押しすることが重要です。京都にはあらゆるジャンルの一流の人々がいます。そうした人との交流を通じて「ほんまもん」の価値を発信し、グローバルに展開できる企業を生み出すことができると考えています。加えて、イノベーションを牽引するスタートアップの育成・支援にも注力し、次世代の京都を支える企業の創出を目指します。また、多様な強みを持つ人材の育成と幅広い層の活躍推進にも力を入れ、大学との連携を強化しながら、新しい京都の魅力を創り出してまいります。

2つ目の柱は、『「攻め」と「守り」のまちづくりの推進』です。京都らしい風格や景観を守りながらも、未来を見据えた都市基盤の整備を進め、経済の活力を生み出す「稼ぐ都市」への成長を目指してまいります。京都駅周辺の再開発や北陸新幹線の早期延伸の実現、京都市南部地域への企業誘致など、都市の競争力を高める取り組みに加え、LRTの導入など、観光客と地域住民が共生できる交通体系の整備に向けた道筋をつけ、持続可能な都市の実現を経済界として積極的に牽引してまいります。

3つ目は、「挑戦する商工会議所の構築」です。本日の臨時議員総会でご承認いただいたところですが、今後の事業活動をさらに強力に進めていくため、今期より副会頭を1名増やし、体制の強化を図ります。また、現在、京都市内に4つの事業者支援拠点を設け、61名の経営支援員が活動しています。激変する経営環境への対応を余儀なくされる企業に対して、きめ細やかな経営支援を展開できるよう、支援体制の見直しを早急に進めてまいります。また、これまで以上に異業種交流の機会創出に努め、本所に入会するメリットを実感していただける組織づくりを目指します。

現在、今年7月に開催した第17回京都経済人会議での議論を経て、これからの京都全体の成長戦略を策定・推進するための、経済界・大学・行政の連携による「産学官連携の協議会」の設置を、京都府・京都市とともに進めています。また本所でも、これまで12あった委員会を8つに再編し、より実効性の高い政策提言を行う体制としております。

京都商工会議所が、地域と企業、人と人をつなぎ、京都に息づく「ほんまもん」の価値を次の世代へ継承していけるよう、精一杯取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

■副会頭紹介

さて、総会では、副会頭8名と専務理事、常議員、監事を選任しました。

副会頭については、経済界として継続して取り組まなければならない課題が多いことから、新たに2名を迎え、合計8名の副会頭をお願いさせていただきました。ここで順に紹介いたします。

本日は8名全員にご出席いただいております。

京セラ株式会社・代表取締役会長の山口 悟郎さん、
株式会社京都フィナンシャルグループ・代表取締役社長の土井 伸宏さん、
株式会社トーセ・代表取締役会長兼CEOの齋藤 茂さん、
学校法人大和学園・理事長の田中 誠二さん、
オムロン株式会社・取締役会長 取締役会議長の山田 義仁さん、
村田機械株式会社・代表取締役社長の村田 大介さん、
京都青果合同株式会社・代表取締役社長兼グループ CEO の内田 隆さん、
NISSHA株式会社・代表取締役社長 最高経営責任者の鈴木順也さん、
以上の8名でございます。

改めまして、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。